



平成26年8月25日

卓話 『あなたはロータリーに何を求めますか?』

国際ロータリー第2750地区
山の手東グループガバナー補佐

浅田 豊久 様



皆さん、こんにちは。当2750地区の8つのグループのうち山の手東グループを担当するガバナー補佐としては、今日が最後の例会訪問です。

「あなたはロータリーに何を求めますか?」という今日の演題ですが、ロータリーが六本木ロータリーのメンバーに期待するものと、各メンバーがロータリーに期待するものは何だろうということから入りたいと思います。先週、生まれ故郷の金沢に行きましたとき、突然、僕のレンタカーに若い女性から声がかかり、それがなんと小篠ゆまさんでした。彼女が六本木ロータリーに入るまでは、私とは縁もゆかりもなかったんですが、このロータリーはそういうネットワークを作ってくれるんです。

10年前、当時、私は西ロータリーのメンバーでした。東京西ロータリーはロータリーワンというニックネームで呼ばれるシカゴ・ロータリーとシスターの関係で、そのご縁で2005年、シカゴの100周年の記念例会に参加しました。シカゴ・ロータリーはメンバー数400人ですが、その内、毎週お出になる方は200人です。残りの200人はというと、ロスアンゼルスとか東京とかに転勤されて、しかし籍はプライドあるシカゴ・ロータリーに置いているというのが特徴です。当日の100周年記念祝賀会は華やかに行われ、大変思い出多いものでした。

ロータリーがなぜ100年も世界に120万人のメンバーを維持しているのかといえば、グローバルカンパニーでありながら中小企業の持つクイックレスポンスの力があるからです。ロータリーの組織力、運営力の源泉は、リーダーが毎年交代して、しかもその予備軍が常に待機しているところにあります。私ガバナー補佐に就任するときも、また

かというほど研修漬の日々でした。

私は今日、ロータリーは無用の用という用をなしているのではないかということを皆さんにアピールしたいのです。漢の王、劉安が東西の学者を集

めて作った淮南子という書物に「一目の網は鳥を得ず 鳥捕る網はただ一目」という言葉があります。鳥を捕まえようというとき、一目だけの網を鳥の通り道に張っても鳥は捕まえられません。では1万の網目を持つ網の、鳥を捕まえた一目だけが用をなしたのかというと、そうでもない。残りの9,999の役目をしているのが、私はロータリーであると理解しています。

薬師寺の東塔も同じです。東塔は1300年の歳月に耐え、今に残りました。昭和の大修復のとき、著名な建築家が修復でばらされた材料の数を見て、この無数の梁と柱で私は同じものを3つ作ることができるとおっしゃったそうですが、千年に一度の台風、大地震にも耐えるために、古代人はそれだけの柱と梁を使ったということをご認識いただきたい。同じように、ロータリーは無用という、不要じゃないですよ、無用という大事な用をなしている。それがこの例会であるというわけです。

当六本木ロータリーが力強く発展することを念じまして、今日の話を終わります。ありがとうございました。

